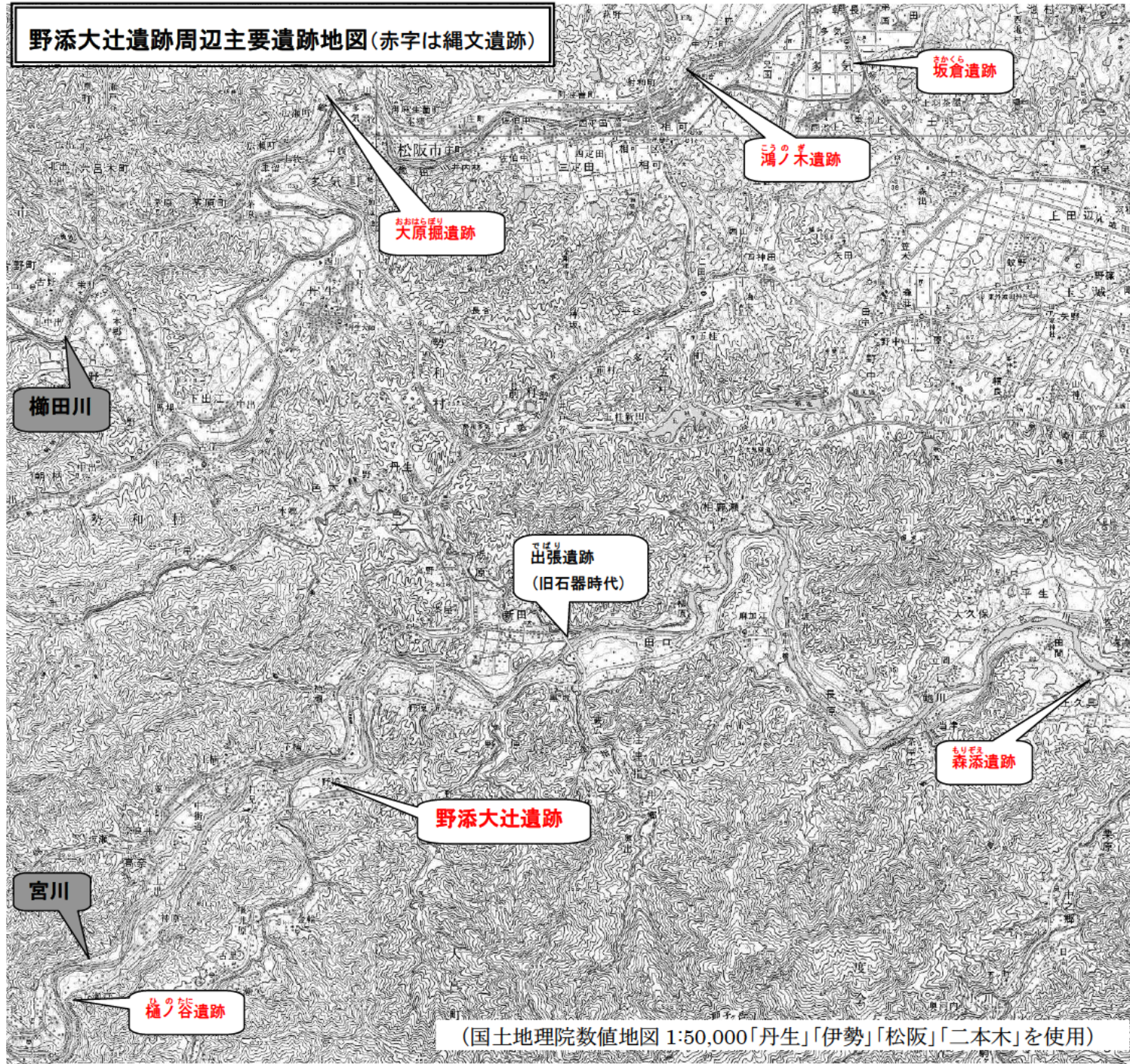


野添大辻遺跡周辺主要遺跡地図(赤字は縄文遺跡)



のぞえおおつじいせき
野添大辻遺跡 現地説明会資料

～度会郡大紀町野添～

2012年8月11日
三重県埋蔵文化財センター



炉穴跡より出土した押型文土器

【おわりに】

野添地区において本格的な発掘調査が実施されたことは今回が初めてです。この調査で縄文時代早期や中世の遺構・遺物が数多く確認でき、予想を大きく上回る成果がありました。

宮川水系の河岸段丘上には、樋ノ谷遺跡(大紀町神原)、森添遺跡(度会町上久具)などの縄文遺跡が数多く知られていますが、今回の調査結果により、野添大辻遺跡はこれらの遺跡と同様に三重県の縄文時代を知る上で大変重要な遺跡となります。

県道整備に伴う発掘調査は来年度以降も引き続き実施される予定です。さらなる調査により埋もれた歴史が現代に甦ることを期待しています。

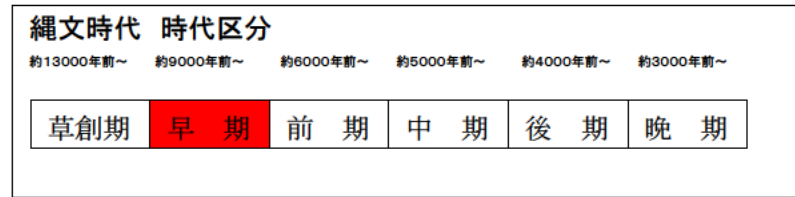
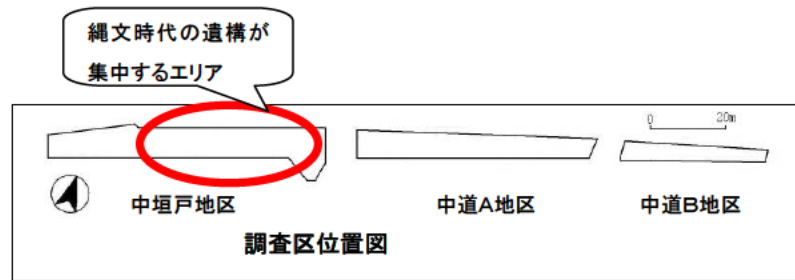
調査遺跡名	野添大辻遺跡
所在地	三重県度会郡大紀町野添
原因事業名	(主)伊勢大宮線(野添)地方特定道路整備事業
調査実施機関	三重県埋蔵文化財センター

【はじめに】

野添大辻遺跡は、日本一の清流、宮川中流域の美しい田園風景の中にある遺跡です。野添地区は宮川の右岸段丘上にあり、南と東には山地が迫り、西には宮川の支流の藤川があって深い谷を形成しています。

今回の発掘調査は、県道の整備事業に伴って実施した第1次調査になります。昨年度におこなわれた範囲確認調査から、この遺跡は中世(鎌倉～室町時代)の集落跡と考えられていましたが、中世だけではなく、縄文時代や奈良時代の遺物が出土しており、この地域に住んでいた人々の生活時期が大きく広がりました。特に縄文時代早期(今から約8,000年以上前)の集落跡が確認され、多くの縄文土器や石器が出土したことは非常に大きな意義があります。

それでは、調査によって見つかった内容を見ていきましょう。

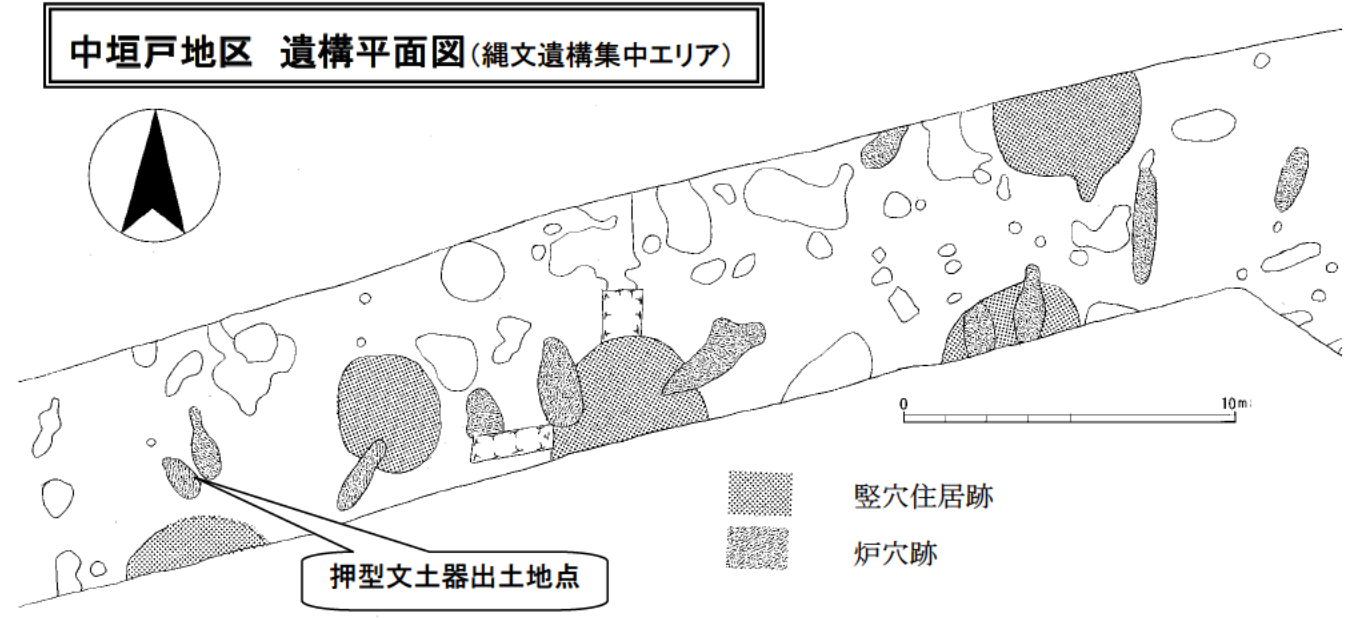


【縄文時代の竪穴住居跡・炉穴跡】

中垣戸地区では縄文時代早期の集落跡が見つかりました。竪穴住居跡が5棟、炉穴跡（ろあなあと：屋外の調理場）が11基、確認できました。炉穴跡の中には「煙道付炉穴」と呼ばれる煙突の役割をする穴がある炉穴もあります。



竪穴住居跡



【中世の遺構】

中垣戸地区では井戸跡が2基みつき、多くの土器が出土しました。また中道 A 地区と中道 B 地区では中世の土坑や柱穴が多数確認されました。特に中道 B 地区では掘立柱建物跡や室町時代の石組遺構も見つかりました。（中道 B 地区はすでに調査を終了し、埋め戻されています。）地下に大きな穴を掘って周囲を石で囲んだ地下の施設は一体何だったのでしょか？現在のところ県内でもいくつかの出土例がありますが、どのように使用していたのかははっきりしていません。一説では貯蔵・収納施設である「地下蔵」と考えられます。



中世の石組遺構

【縄文時代の出土品(押型文土器と石器)】

野添大辻遺跡で見つかった縄文土器は、約1万年にもおよぶ縄文土器の中でも押型文土器（おしがたもんどき）と呼ばれる古いタイプの土器です。特に表紙写真にある押型文土器の出土状態は非常に良好で、全国的に見ても大変貴重なものです。遺跡全体では700点以上の押型文土器の破片が見つかっています。

また土器の他に数多くの石器が見つかっています。石鏃や磨皿など当時の人々が使用していた石器もありますが、多くは石器を製作するための原料やその途中で生じた破片とみられるものです。集落での石器の生産が盛んに行われていたことが考えられます。



出土した押型文土器



炉穴跡



出土した石器

【中世の出土品】

南伊勢地域で作られた土師器（素焼きの土器）がたくさん出土しました。皿や鍋、羽釜など生活に密着した土器です。また中国から輸入された青磁や知多半島や渥美半島で作られた陶器である山茶碗、常滑産の陶器なども出土しました。当時の人々の生活を感じられる品々です。



出土した中世土器類